

職場体験 感想文コンクール2024

タイトル	声を届ける	事務局	116
学校名	新庄市立新庄中学校	氏名	とうご 武田 東子

今年の職場体験は、事前にエントリーシートを作成し、面接を受けて合格しなければならないという就職試験の本番さながらのものだった。私は「あすラジ」という新庄市のコミュニティFMラジオ放送局を選んだ。広報委員として校内放送の面白さを実感していたので、本場のラジオ局の仕事を経験出来るのはとても楽しみだった。それにラジオはあまり聴かないため、どんな仕事をしているのか気になったからでもある。

ラジオ局ではジングル撮り・レポート・放送業務を行った。ジングルとは短い時間で音楽と音声で伝えたいことを言うCMのことだ。流すのは声だけなのに表情も大切だという事を教わり、表情作りや声のトーンなどの練習を重ね、何テイクも撮った。だから出来上がったジングルを聴くととても嬉しかった。まだ「ジングル撮り」という一つの業務しかやっていないのに、出来上がるとこんなにも達成感を得ることができるのだと思った。次にレポートに同行させてもらいスーパーへ行った。レポートでは店内のお得な情報を見つけてラジオで生中継し、お店の人とリポーターが店と商品を紹介する。店から直接情報が発信されるので、これはチラシやテレビCMにはない魅力だと感じた。それと同時に紹介した商品が売れてほしいなとも思った。

いよいよ放送に参加する時が来た。やはりこの時は何とも言えない緊張が走ったが、パーソナリティの方がリラックスするように声を掛けてくれたので少しほぐれた。最初は自己紹介から始まった。ただの自己紹介なのに、一語一語自分の話す言葉がこの表現であっているか？とばかり考えていた。自分が喋っているこの声がラジオを聴いている人に流れているのだと思うと不思議な気持ちになった。時々放送中にリスナーの方からメールが届く。どれも「聴きやすい」や「頑張って」などの励ましのメールだった。ちゃんと話せているのか分からなく不安だったのでとてもうれしかった。そして朝撮ったジングルを途中で流していただいた。そこで本当にラジオのパーソナリティをしているのだという実感が湧いてきた。やっていくうちに、緊張の中にも楽しいと感じる瞬間が増えていった。

放送時間は約一時間であったが、あっという間に過ぎた感覚だった。トーク中にどう話したらいいか迷ったりして、時々止まってしまうこともあった。そんな時でもパーソナリティの方が話題を広げ面白くしてくれるので流石プロだと感じ、安心して最後までやり遂げることができた。放送を終えた後、ラジオ局の方々から「上手だったよ！」と言われたのがとても嬉しかった。正直緊張しすぎてその場のノリでしゃべったことも多かったが、ラジオではそんな感じでも大丈夫という雰囲気があって、とても話しやすいなと思った。

放送後はインタビューの時間を設けてもらい、ラジオの仕事に関する質問をした。「私たち聴く側に求めることは何ですか？」という質問に、ラジオ局の方が「ラジオを常にそばに置いてもらい、なんとなく付けてもらい、そしてなんとなく消す。生活の中のBGMの様なもので、あくまで脇役でいい。どこまでいっても主役にならない。」と答えてくれたのが印象に残っている。

また、地域で大きな災害があった時はリスナーが増えるということを知った。それは局地的な災害の様子や通行止めになっている場所などの情報を事細かく放送するからだ。大きな災害時には24時間放送を続けるそうで、地域の人にとってとても心強い存在になると思う。これは他のラジオ局にはない、地域に寄り添うあすラジならではの特色だなと思った。

私のもう一つ、あすラジがユニークで独特だと思ったことは「新庄弁」でトークすることが多いところだ。私は普段、友達とはあまり新庄弁で話すことはないが、家では家族が普通に話しているのを聞いている。だからラジオで新庄弁が流れれば、私たち世代には家族や親戚の人が話しているような感覚になる

職場体験 感想文コンクール2024

「声を届ける」 新庄市立新庄中学校 武田 東子

し、親や祖父母の世代には友人や近所の人が話しているような感覚になると思う。新庄弁で話すことは誰にでも親近感や安心感を与えてくれることにつながっているのだと思った。

こうしてあっという間に仕事体験が終わった。家に帰る道を歩きながら「またやってみたい」とずっと思っていた。最初は不安もたくさんあったが、やってみるととても楽しい体験だった。そして何よりこのラジオ局を選んで良かったと心から思うことができた。

この仕事体験をするまで「働くこと」とは、自分を成長させることだと考えていた。しかし体験を終えた今は、それに加えて人の役に立つことも大事だと思った。あすラジのように、発信した情報が聴いている誰かの生活に役立ってくれれば、また日常にホッとする時間やクスッと笑える時間を提供できれば、これほどやりがいを感じることはないと思う。そしてそれが自分を成長させることにも繋がるのではと思う。

まだ私には具体的な将来の夢はない。だけど、この仕事体験で感じたような「やりがい」を得られる仕事に、将来就いてみたいと思った。